

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-34830

(P2002-34830A)

(43) 公開日 平成14年2月5日(2002.2.5)

(51) Int.Cl.

A 4 7 K 7/00

識別記号

1 0 5

F I

A 4 7 K 7/00

特開2002-34830A (参考)

1 0 5 2 D 0 3 4

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願2000-228180(P2000-228180)

(22) 出願日

平成12年7月28日(2000.7.28)

(71) 出願人 392023946

サンリツ株式会社

岐阜県益田郡小坂町大字大島1271

(72) 発明者 中谷 徹

岐阜県益田郡小坂町大字大島1271

(74) 代理人 100073287

弁理士 西山 閑一

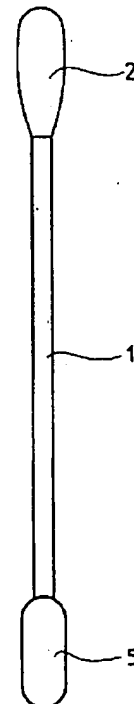
Fターム(参考) 2D034 BA02

(54) 【発明の名称】 綿 棒

(57) 【要約】

【課題】 耳垢等が取り出し難かった。

【解決手段】 綿体部に粘着性を有させた綿棒を提供する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 軸棒の一端に紡錘形状の綿体部を装着すると共に、該綿体部には粘着剤を浸透させ、一方軸棒の他端には軸棒の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花を装着すると共に、該綿花の外周に多数の環状溝を等間隔置きに形成したことを特徴とする綿棒。

【請求項2】 軸棒の一端に軸棒の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花を装着すると共に、該綿花には粘着剤を浸透させ、一方軸棒の他端には軸棒の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花を装着すると共に、該綿花の外周に多数の環状溝を等間隔置きに形成したことを特徴とする綿棒。

【請求項3】 軸棒の一端に軸棒の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花を装着し、一方軸棒の他端には紡錘形状の綿体部を装着し、綿花あるいは綿体部の片方に粘着剤を浸透したことを特徴とする綿棒。

【請求項4】 軸棒の両端に軸棒の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花を装着し、該綿花の片方に粘着剤を浸透したことを特徴とする綿棒。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、耳清掃や化粧用使用する綿棒に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、耳清掃や化粧用には、一端および両端に綿体を装着した綿棒がよく使用されており、綿棒の端部に設けた綿体部に耳垢等を絡み付かせて取り除いたり、又前化粧用として使用すれば効果的であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、綿棒の綿体部は、単に、軸の端部に綿花を巻き付けているだけのため、綿体部の繊維に絡み付かせた耳垢等をその取り出し中に落下させてしまったり、綿体部による耳垢等の掻き出し中に、耳垢等を奥の方に押し込んでしまうなどして耳垢等が取り出し難く、満足な掃除が出来なかった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、綿体部に粘着剤を含ませ、粘着性を有させることにより、上記課題を解決する。

【0005】

【発明の実施の形態】以下本発明の一実施例を図面に基つて説明する。第1図は本発明に係る綿棒の正面図であり、1は紙製あるいは合成樹脂製、木製の軸棒にして、該軸棒1の一端には紡錘形状の綿体部2を装着すると共に、該綿体部2には粘着剤を浸透している。粘着剤としては、アクリル系粘着剤、ウレタン系粘着剤、ゴム系粘着剤などを使用し、この粘着剤を綿体部2の表面に塗布するか、又は粘着剤に綿体部2を浸漬し、該綿体部2表面の綿繊維に粘着剤を付着させる様に成している。又、軸棒1の他端には軸棒1の径よりやや大なる略円柱

状の綿繊維を巻き付けた綿花3を装着すると共に、該綿花3の外周に多数の環状溝4を等間隔置きに形成している。そして、環状溝4は、綿花3における軸線方向の等間隔部位において、その外周円上を押圧して縮径することにより形成され、この縮径部分の繊維は、強く押し込まれ、浮き上がりを生じない様に成している。

【0006】第2図は第2の実施例を示す綿棒の正面図であり、軸棒1の一端に軸棒1の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花5を装着し、該綿花5には粘着剤を浸透している。そして、第1実施例と同様に、軸棒1の他端には軸棒1の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花6を装着すると共に、該綿花6の外周に多数の環状溝7を等間隔置きに形成している。

【0007】第3図は第3の実施例を示す綿棒の正面図であり、軸棒1の一端に軸棒1の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花5を装着している。そして、軸棒1の他端には紡錘形状の綿体部2を装着し、綿花5あるいは綿体部2の片方に粘着剤を浸透している。

【0008】第4図は第4の実施例を示す綿棒の正面図であり、軸棒1の両端に軸棒1の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花5を装着し、該綿花5、5の片方に粘着剤を浸透している。

【0009】そして、綿棒の使用にあたっては、耳穴に挿入して前後動や回転させることにより、掻き起こされた耳垢等を環状溝4内に溜めて除去したり、片方の綿体部2あるいは綿花5を耳穴に挿入して前後動や回転させることにより、水分等の吸収が粘着剤を浸透しないことで耳穴が粘液の分泌が多い場合などには効果的であり、耳穴が特に乾燥している場合は片方の綿体部2あるいは綿花5に浸透した粘着剤にて効果的に耳垢を除去できるのである。尚、その両者を交互的にしても効果的である。

【0010】

【発明の効果】要するに本発明は軸棒1の一端に紡錘形状の綿体部2を装着すると共に、該綿体部2には粘着剤を浸透させ、軸棒1の他端には軸棒1の径よりやや大なる略円柱状の綿繊維を巻き付けた綿花3を装着すると共に、該綿花3の外周に多数の環状溝4を等間隔置きに形成したので、粘着剤により耳垢等を容易にして、且つ取り残しなく付着でき、よって従来の様に耳垢等を取り出し中に落下させたり、奥の方に押し込んだりする恐れがない。又、綿花3が粘着性を有しているので、その感触が柔らかく、耳穴等に綿花3を挿入しても痛みを感じることなく、安全に使用でき、綿棒の利用の幅を広げることができる等その実用的効果甚だ大である。

【図面の簡単な説明】

【図1】綿棒の正面図である。

【図2】第2の実施例を示す正面図である。

【図3】第3の実施例を示す正面図である。

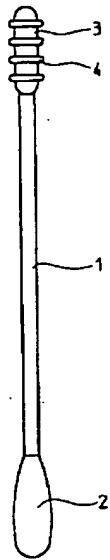
【図4】第4の実施例を示す正面図である。

【符号の説明】

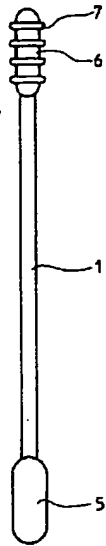
- 1 軸棒
2 綿体部

- * 3 綿花
4 環状溝
5、6 綿花
* 7 環状溝

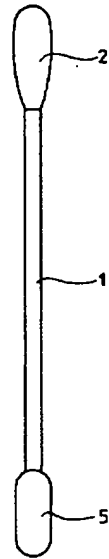
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

